

千葉市史編さん担当

〒260-0856

千葉市中央区亥鼻 1-6-1

千葉市立郷土博物館

Tel 043-222-8231



編さん便り

Chiba-shishi News Letter NO.17 2016.9



展示で 古文書講座



千葉市域に残された江戸時代の古文書を展示、そのひとつひとつの文書の内容や、そこからわかる内容などを解説します。古文書を読む（解読する）過程を追うことで、あたかも「古文書講座」を受けているような…そういった感じを抱いていただけたらと思います。

そのほか、いわゆる古文書が「どういったところであって、発見された後どうやって整理されていくのか？」の疑問について、これまで千葉市史編さん担当が実際に関わった整理作業の

記録などから、ご紹介します。史料整理の現場の雰囲気、少しでも伝われば幸いです。

なお、開催期間中に展示替えを行います（11月10日を予定）。小さなスペースではありますが、内容をはがらりと変える予定です。展示替え後、後半には市史編さん担当古文書整理ボランティアさんと「一緒に古文書を読んでみよう」といったイベントなどを企画しております（日にちは未定）。詳細はHPなどでお知らせします。多くの方のご来場をお待ちしております。

Welcome to KOMONJYO-World !!

〔開催期間〕 平成28年10月7日（金）～12月11日（日）
＊月曜日・祝日は休館（月曜が祝日の場合は翌日も休館）です。
会期中の開館日詳細は郷土博物館HPにてご確認ください。

〔会場〕 千葉市立郷土博物館 2階展示室
〔料金〕 無料
〔お問い合わせ〕 千葉市立郷土博物館 市史編さん担当 Tel 043-222-8231

『千葉市史』編さんのため、古い資料・昔の写真などの情報を集めています。ご家庭で撮影されたスナップ写真も、当時の「千葉」をみることでできる貴重な資料です。いわゆる「古文書」も大歓迎です。聞き取り調査も行いたいと思っています。戦時中の体験、幼い頃の記憶など、千葉市域に関してお話いただける方がおられましたら、ご連絡ください。ご提供頂いた資料、伺ったお話の内容の扱いには、十分配慮致します。皆さまからの情報提供をお待ちします。

資料、 求め。

平成28年度(後期) 千葉市史主催 講座のご案内

中級古文書講座



「江戸時代の村の史料を読む」(仮)

古文書に慣れ、ある程度読める方を対象（千葉市在住・在勤・在学の方）。テキストは江戸時代に書かれた古文書の複写。全6回。

講師；後藤雅知先生

（立教大学文学部教授、千葉市史編集委員）

定員；40名 会場；千葉市立郷土博物館講座室

日程；以下の通り（いずれも火曜、13:30～15:30）

11/8・11/15・11/22・12/6・12/13・12/20

募集期間：10/15（土）～10/22（土）＊**必着**

〔申込方法〕 往復葉書・電子申請でお申し込みください。

住所・氏名（ふりがな）・年齢・性別・電話番号を

明記のうえ、千葉市史編さん担当までお申し込みください。

葉書の場合、一枚につきお一人のご応募となります。

電子申請の方法を含め、そのほかの詳細は市政だより（10月15日号）・千葉市立郷土博物館HPにてご確認ください。

千葉市立郷土博物館

検索

CLICK!

※お申込み多数の場合は、抽選となります。

お問い合わせ・お申し込み

〒260-0856 千葉市中央区亥鼻 1-6-1

千葉市立郷土博物館 市史編さん担当

Tel 043-222-8231



初級古文書講座って、楽しい!?

千葉市史編さん担当主催の各種講座では、受講者の方にアンケートへのご協力をお願いしています。今回は、9月3日（土）に終了しました平成28年度初級古文書講座において実施しましたアンケートより、ご意見・ご感想をいくつか紹介いたします。なお、文章は極力書かれたままを掲載しております。お忙しいところご協力いただきました受講者の皆さま、本当にありがとうございました。

- ・講師の説明が分かり易く、又ユーモア有り、勉強が楽しかった。又、クイズ形式の字のくずし字を捜すことも、おもしろい。テキストの内容も、千葉市に関係あり、古文書ともに、ミニ歴史も学べた。No付きの原稿下書き用がついていて、字の練習になった。是非、又、先生の講義が受けられることを期し、感謝。（70代・男性）
- ・仕事をリタイヤして時間が出来、初心者向けの当講座を受講して有難く、感謝いたしております。興味があつた「古文書」の世界に一步入れて感激です。（60代・女性）
- ・クイズのなぞ解きの気持ちと歴史につながる文書でもあり得る内容から軽い気持ちではじめました…が、どうしてどうして終ることのない空間でどうしてよいやら迷っております。暑いさなかお疲れ様でした。ありがとうございました。（70代・女性）
- ・学ぶ機会が無かったので、続けられるか心配だったが、結果はとても楽しかった。図書館で本をさがしたりもしました。（60代・女性）
- ・古文書解読本を買って勉強していたが、くずし方が違い字を読むのに苦労した。根気が必要と感じた。（70代・男性）
- ・わかるかなとちょっと心配しながら参加しましたが、わかりやすく、楽しく勉強できました。先生が次回の講座までの間にも、何度も読んでみるようにとおっしゃったのがとても役にたちました。（60代・女性）

→新しい学びの機会をご提供できて、幸いでした。古文書の深い森に迷い込んでしまった方も多数いらっしゃるようで、担当としてはうれしい限りです（笑）。

- ・入門・初級・中級と三段階にしてほしい。（70代・男性）
- ・受講前は固苦しい内容かなと思っていましたが、始めてみると講師の教え方がうまく非常に面白い講座でした。今後中級講座を是非開講して欲しい。（60代・男性）
- ・更に中級講座等があるとよいと思います。今回はわかり易く楽しく教えていただき、益々興味が湧きました。ありがとうございました。（60代・女性）
- ・体系的・継続的に10回程度でマスター出来る（初級の基本）講座を希望する（ちょっと5回では少ない）。（60代・男性）
- ・月1回より月に2回行う方がよいと思います。テキストは難しかったですが、丁寧に読み込んでいただきたいへん勉強になりました。ありがとうございました。（60代・女性）

→中級古文書講座は上記の通り今年度も開講いたします。ご応募、お待ちしております。回数やレベル設定などについては、検討していきたいと思います。

- ・今後も継続してもらうと有難い。別時代・別階層のものも知りたい。（60代・男性）
- ・講座時間に対してテキストに追いついていけずに解らないまま、終了してしまう時がある。（70代・男性）

→テキスト内容などにつきましては、講師の先生とご相談して、改善につとめてまいります。

頂戴しましたご意見・ご感想は、これからの市史編さん事業へ活かしていきたいと考えております。今後とも千葉市史編さん事業へのご理解・ご協力をお願いいたします。

千葉市と東京オリンピック まとめ

2016年8月21日、熱戦が繰り広げられたリオデジャネイロ・オリンピックが、そして9月7日から始まったパラリンピックも18日に閉幕。今年の夏はテレビに釘付け…な方も多かったのではないのでしょうか。近來稀に見る好成績を残したこともあり、また次の2020年オリンピック・パラリンピックは東京大会ということもあり、否が応にも盛り上がりを見せていました。

東京でのオリンピックは二度目の開催となります。前回の開催は1964（昭和39）年。幻に終わった1940（昭和15）年東京大会もありますし、このときもかなりの盛り上がりを見せたことでしょう。ご記憶にある方も多いのではないのでしょうか。この初めての東京大会、千葉市内でもオリンピックに関わる出来事がありました。

◆聖火が学校にお泊り？

次の写真（写真1）は、1964年、花園中学校で撮影されたものです。背景に中学校の校舎があり、中央には聖火を手にしたランナーや、小さな聖火台、そしてカメ



写真1 オリンピック聖火、花園中学校に到着（昭和39年）

ランや見物人らしき人々がみえます。

千葉市域を通る聖火リレーのコースを、昭和39年10月号の千葉市政だよりが伝えています（図1）。8月21日にオリンピアで採火された聖火は、10月6日に千葉市に入り、佐倉街道を通過して県庁前を通過（ここで一泊）、その後海岸線をリレーされ、習志野市に引き継ぐコースで国立競技場へ向かいました。

聖火リレーのあと、実際に競技が行われるクロスカントリー会場への分火のためのリレーも行われました（図1破線）。この分火は千葉寺の県営競技場へヘリコプターで一度運ばれ、そこから高校生10名によるリレーを行い、花園中学校で一泊した後、聖火台へ点火されました。市政だよりによると、聖火リレーは23人で編成されているのに対し（図内走行隊形参照）、分火リレーは各区間一走者だけとされています。

◆千葉にオリンピックがやってくる！！

昭和39年3月号の千葉市政だよりでは、近代五種競技のうち千葉市で開催される「断郊競争（クロスカントリー）」について報じています。会場は東京大学検見川総運動場。市政だよりによれば、26,400㎡の敷地内に「やわらかい芝生が広場一面に密生し、ゆるく起伏する丘に点在する松の植え込みなどは健康感をそそるに充分で、世界最強の選手たちを迎えても恥ずかしい場所」としてしています（写真2）。検見川総運動場には、分火された聖火をともし聖火台が設置されました。また、あわせて大賀ハスで有名な大賀一郎博士の記念碑も建てられました。

10月号市政だよりでは、「美しい環境でオリンピックを迎えましょう」とのスローガンが掲げられています。他の号では道ばたの雑草を刈り取る



上より 千葉市政だより昭和39年3月号（写真2）・同年10月号（写真3）・同年11月号（写真4）

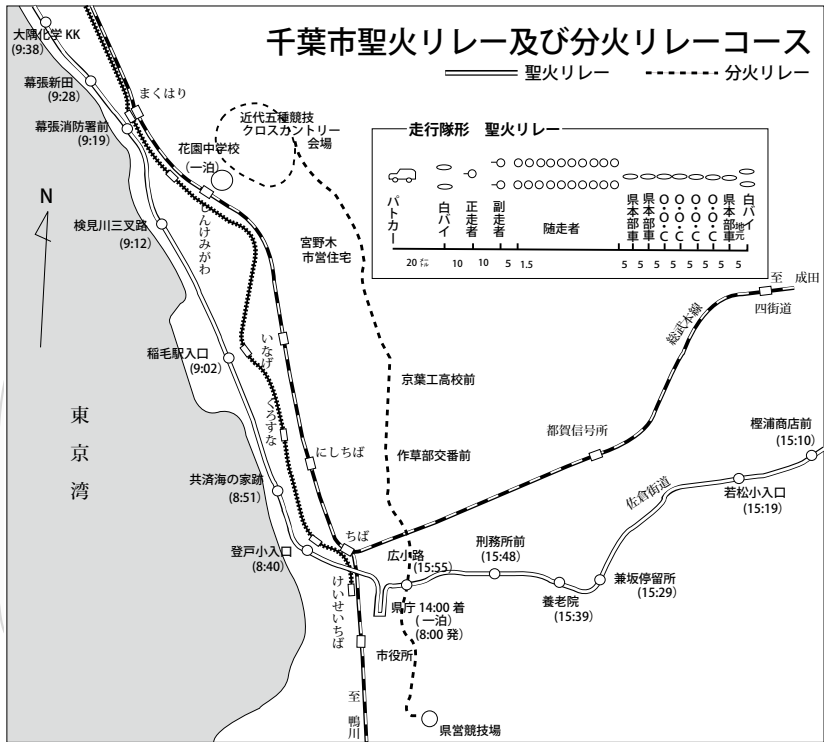


図1 千葉市政だより昭和39年10月号掲載の図版より

など、環境美化についての呼びかけがされました。また聖火リレーの報知に際しては「全家庭で国旗の掲揚を」と呼びかけています。環境を整え、全市一丸となってオリンピックに臨もうとする姿勢が見て取れます。（写真3）

競技終了後10月15日には東大検見川総合運動場体育館で、クロスカントリーの各国選手や報道陣を招いて歓迎レセプションが行われました。その様子を含め、オリンピック終了後11月号の市政だよりには、千葉市域でのオリンピックに関わる写真（聖火リレーはもちろん、クロスカントリー競技をご覧になるために検見川グラウンドを訪れた皇太子一行を迎える写真など）が一面に大きく掲載されました。（写真4）千葉市にとって本当に大きなイベントであったことがわかります。

…ちなみに、この年（1964年）の「千葉市五大ニュース」は①オリンピック聖火市内リレーと検見川で近代五種おこなわれる、②人口30万突破、③出洲地区海岸埋立開始、④加曽利貝塚の発掘調査、⑤国保、全家族に七割給付、でした（昭和40年1月号千葉市政だより）。

◆大賀ハスと「千葉らしさ」

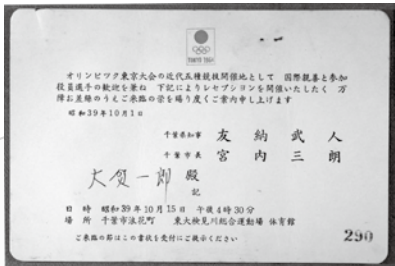


写真5 レセプション招待状



写真6 クロスカントリー観覧チケット

オリンピック開催に際し、東大検見川総合運動場には聖火台とともに、大賀博士の記念碑が建設されましたが、あわせて大賀一郎博士のもとには、友納武人千葉県知事・宮内三朗千葉市長より歓迎

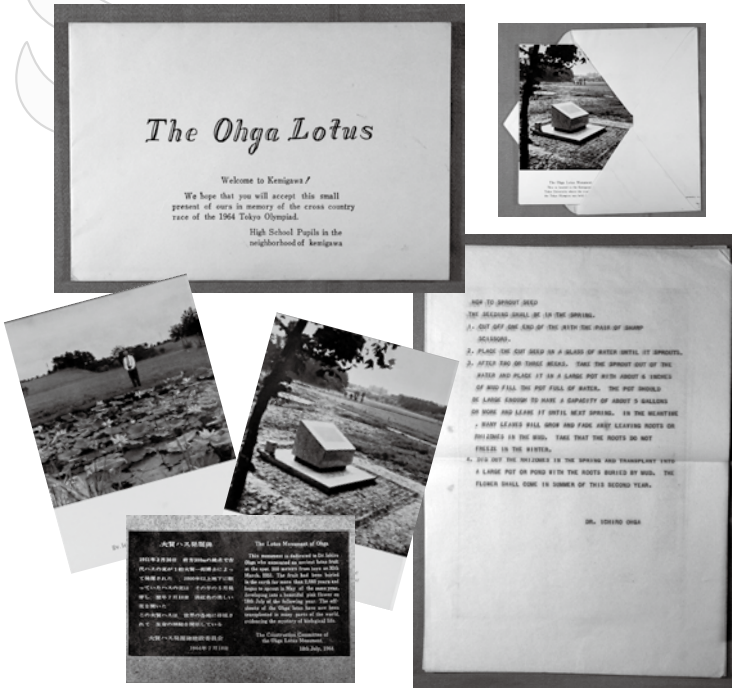


写真7 大賀ハスの絵葉書（封筒付）と発芽説明書

*写真5～7はいずれも千葉市立郷土博物館蔵

レセプションの招待状（写真5）やクロスカントリー競技の観覧チケット（写真6）が届けられていました。どうやら大賀博士はこのとき参加することができなかったようで、未使用のまま残されたチケットとともに、歓迎レセプションの際参加選手や報道陣に対し配布された大賀ハスの絵葉書（"The Ohga Lotus" 検見川周辺の高校生による歓迎のメッセージ付きの封筒入り。分火リレー同様、市内の高校生が大きく関わっていることがわかります）が残っています。この絵葉書には大賀ハスの実三粒が一緒に配布されていたよう（大賀ハス発見時の「3粒」になぞらえたものだろうか）、英文タイプの大賀ハス発芽の説明書も同封されていました（写真7）。

歓迎レセプションでは、千葉県知事から「カブト」・千葉市長からは「ユカタ」がお土産として送られたとされています。東京2020年オリンピック競技大会でも「日本らしさ」が強調されているようですが（いわゆる「クール・ジャパン」?）、このときのお土産にも、「日本らしさ」を伝えようとする傾向がみえるようです。また、そこに大賀ハスの実や絵葉書を合わせることで、「千葉らしさ」を伝えつつ、「おもてなし」しようとしたのかもしれませんが。

東京2020年オリンピック競技大会では、幕張メッセにてフェンシング、レスリング、テコンドーが開催されます。パラリンピックでは、同じく幕張メッセでゴールボール、シッティングバレーボール、車いすフェンシング、テコンドーが開催されます。もしいま、選手団に「お土産」を渡すなら何だろう??…再度オリンピックを迎えるにあたり、「日本らしさ」「千葉らしさ」を考えてみるのも、面白いのではないのでしょうか。